

Web予約
PC・モバイル共通



<https://bit.ly/2MwTxbJ>

ぴあ映画
初日満足度1位
(11月3日ぴあ調べ)

文部科学省
特別選定映画

厚生労働省
推薦映画

認知症の母と耳の遠い父と離れて暮らす私 —

ぼけますから、 よろしくお願いします。

ドキュメンタリー映画



広島県呉市。泣きながら撮った1200日の記録

日 2019年7月18日 木
時 19:00~20:50 (18:30開場)

会 大竹財団会議室
場 東京都中央区京橋1-1-5セントラルビル11F

参加費 一般=500円
学生、大竹財団会員=無料
定員30名【要予約】

主催 一般財団法人
大竹財団

監督・撮影・語り

ひとり娘

信友直子

プロデューサー：大島 新 濱 潤 共同プロデューサー：前田亜紀 堀 治樹 山口浩史
編集：目見田 健 実景撮影：南 幸男 音響効果：金田智子 ライン編集：池田 聡 整音：富永憲一
配給宣伝協力：ボレボレ東中野 ウッキー・プロダクション 製作・配給：ネツゲン フジテレビ 関西テレビ

2018年/日本/カラー/102分/©「ぼけますから、よろしくお願いします。」製作・配給委員会

www.bokemasu.com



カマを向け 初めと気づいた。 両親がお互いを思い合っているということ。

母、87歳、認知症。

父、95歳、初めての家事。

広島県呉市。この街で生まれ育った「私」(監督・信友直子)は、ドキュメンタリー制作に携わるテレビディレクター。18歳で大学進学のために上京して以来、40年近く東京暮らしを続けている。結婚もせず仕事に没頭するひとり娘を、両親は遠くから静かに見守っている。

そんな「私」に45歳の時、乳がんが見つかる。めめめそしてばかりの娘を、ユーモアたっぷりの愛情で支える母。母の助けで人生最大の危機を乗り越えた「私」は、父と母の記録を撮り始める。だが、ファインダーを通し、「私」は少しずつ母の変化に気づき始めた…

病気に直面し苦悩する母。95歳で初めてリンゴの皮をむく父。仕事を捨て実家に

帰る決心がつかず揺れる「私」に父は言う。「(介護は)わしがやる。あんたはあんたの仕事をして」。そして「私」は、両親の記録を撮ることが自分の使命だと思い始め—

大反響のテレビドキュメンタリー、 待望の映画化。

娘である「私」の視点から、認知症の患者を抱えた家族の内側を丹念に描いたドキュメンタリー。2016年9月にフジテレビ/関西テレビ「Mr.サンデー」で2週にわたり特集され、大反響を呼んだ。その後、継続取材を行い、2017年10月にBSフジで放送されると、視聴者から再放送の希望が殺到。本作は、その番組をもとに、追加取材と再編集を行った完全版である。娘として手をさしのべつつも、制作者としてのまなざしを愛する両親にまっすぐに向けた意欲作。

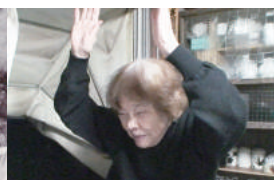


港町呉は坂の多い町でもあります。買い物するにも一苦労。結婚以来、父と母はずっとここで暮らしてきました。

ひとり娘 ドキュメンタリー監督 信友直子



1961年広島県呉市生まれ。東京大学卒業。在京キー局で数多くのドキュメンタリー番組を手掛ける。放送文化基金賞奨励賞、ニューヨークフェスティバル銀賞、ギャラクシー賞奨励賞など受賞多数。



ドキュメンタリー映画

ぼけますから、よろしくお願いします。

上映会のご予約・お問い合わせ

一般財団法人 大竹財団

東京都中央区京橋1-1-5 セントラルビル11階

JR東京駅八重洲中央口から徒歩4分(八重洲地下街24番出口右階段すぐ)、
東京メトロ京橋駅7出口から徒歩3分、東京メトロ日本橋駅B3出口から徒歩4分

<https://ohdake-foundation.org> 03-3272-3900



Google
マップ
QRコード

スマートフォンのQRコードアプリで読み取ると、現在地から会場までのアクセス方法が検索できます

